

読む、書く、考える

昨日の26日(木)に開催された「群馬県図書館大会」に出席してきました。その中で行われた記念講演の講師は、言語学者で山梨県立図書館長の金田一秀穂先生でした。テレビなどにもよく出演されていますので、知っている人も多いのではないのでしょうか。

印象に残ったことのひとつが、「言葉」と「文字」に関するものです。先生は、古代ギリシアの哲学者ソクラテス(前470頃～前399)などを例に話されたのですが、ソクラテスは「文字」はよくないと考えていたというのです。ソクラテス自身は書物を残してはいません。それにもかかわらず、現代の私たちがソクラテスの思想を知ることが出来ているのは、弟子のプラトンなどがソクラテスの言動を文字にして後世に伝えてくれたからであるとされています。なぜ、ソクラテスは「文字」はよくないと考えていたのか？ 時代的には、ソクラテスが生きたのは口承文化から文字文化への移行期にあたる頃です。ソクラテスは、文字として外部に書くことが、記憶力を減退させると考えたようです。また、書いた文字は質問に答えることもなければ、間違いを訂正することもなく、言いつ放しです。こうしたことは、知識を吟味し真の知識を磨いていくのは他者との対話、すなわち話される「言葉」の中においてであると考えていたソクラテスにとっては、受け入れ難いものだったのかもしれない。

確かに、「文字」を使用し、読み書きを行うことによって、無文字文化の時代には働かせていた能力の一部を、今の私たちは開花させずに退化させているところがあるのかもしれない。しかし、「文字」の使用によって可能となった知識や情報の集積は膨大な量に上ります。永続的な記録性を獲得することで、社会は大きな変革を成し遂げることが出来ました。

ところで、デジタル化が進む今、ソクラテスが抱いたような危機感は、過去のものではないように思うのですが、どうでしょうか。今、書籍等のデジタル化がどんどん進んでいます。その状況を前にして、紙媒体へこだわりたい気持ち、紙媒体でなければならぬという思いを、なかなか捨て去ることが出来ません。そのため、ともするとデジタル化に伴う負の側面を強調し

たくなる誘惑に駆られるときもあります。真偽が定かではない情報や、厳しく吟味されているとはいえない情報の氾濫を警戒したくなります。しかし、その一方で、デジタル化された文字情報の利便性の恩恵にもあずかっている毎日です。情報の集積、記録性、検索の容易さなど、これまでの比ではありません。これに頼る流れを止めることは出来ないでしょう。したがって、紙媒体の良さは大切にしながらも、時代の流れに対処していくことが求められているのだと思います。玉石混淆^{ごんこう}の情報が送り出され、身のまわりにはあふれていますが、何もしなければそれらは消えていってしまうおそれもあります。これらもかけがえのない財産として、何らかの形で集積し、活用する術を身に付けておくことも必要なことなのかもしれません。

ともあれ、これからも増え続ける情報を素早く処理するためには、当面は「読む」力が求められるでしょうし、情報へのアクセスがつかないほどに容易になったことは、これまでになく新しい発想が生まれることを促進するかもしれません。大切なのは、画面に流れる溢れるほどの情報を前に、簡単に「知ったつもり」になるのではなく、自分としてはどうなのかと「考える」ことなのではないかと思えます。

明もあれば闇もあります。何かを獲得することは、ことによると何かを犠牲にすることになるのかもしれない。ただ、成長とはそういうもので、そうやって、私たちはこれまで成長してきているのかもしれない。犠牲にしながら獲得したものをしっかり伸ばしていきたいものです。

講演の中で金田一先生は、「書きながら考える」ということを話されていました。「書く」ことで、自分の考えが見えてくるのだと思います。ソクラテスは「書く」ことをしなかったわけですが、私たちは「書く」ことで自分の中の考えを産み出し、形にして、それに気付くことができるのではないのでしょうか。考えてから書けるのであれば、それは素晴らしいと思いますが、なかなか難しいものです。

読んで得た知識を使い、書きながら考える。結局、何か当たり前の結論になってしまいました。

落ち葉を掃きながら…

紅葉も終盤となりました。紅葉はきれいなのですが、落ち葉はそのままにしておけません。このところの朝の日課のひとつが、枯れ葉の掃除です。日の出時刻が日を追って遅くなっていますので、まだ暗いうちの作業です。ただ、東の空の朝焼けの美しさや、短い時間の中で変わっていく空の色合いなど、早起きをしたからこそその楽しみも味わっています。葉が落ちきるまでの作業も、受け止めようによっては苦労ばかりではなくなります。また、面白いことに、同じ程度に落ち葉のある場所でも、掃除をする前の落ち葉と、掃除をした後のそれとの違いを感じられたりするのです。

朝が暗いので、光を感じます。明るい中では、あまり意識しない感覚です。考えてみると、夜も暗いからこそ、自転車や車のライトの明るさ、ありがたさを感じることができるのです。明るさと暗さ、光と闇。両方あるから、それぞれが際立ちます。

私たちの生活においても、苦しいことが多いと思いますが、苦しいことがあるからこそ、楽しいことがありがたく感じられる、ということがあるのではないのでしょうか。葉が落ちるから芽吹きや新緑があるように、悲しみがあるから喜びもあるわけです。

コロナの時代だからというわけではないのですが、なかなか前向きに考えられなくなっているということはないのでしょうか？そして、前向きになれないことで自分を責めたりすることはないのでしょうか？前向きになれるのであれば、それはそれでいいと思いますが、前向きになれないことを否定的にとらえる必要もないのではないかと思います。後ろ向きということは、慎重になっているあらわれです。いろいろな進み方を考えながら見つめているわけです。

今の状態では自信が持てない、というような気持ちになると、なかなか前向きには考えられません。しかし、その状態は、一度立ち止まって、自分を見つめ直している状態なわけですから、その立ち位置を見据えて、やれること、不安の元になっていることを考えてみればよいのだと思います。やがて明かりが見えるときが訪れます。

先日、本校の国際科の大きな行事である「インターナショナルデー」を実施しました。県内8校からALTの先生を迎え、ご協力いただきました。国籍も様々でした。アメリカ合衆国、カナダ、ニュージーランド、南アフリカ共和国。それに加え、本校では、第二外国語で中国語、ハンガル、フランス語、スペイン語を学習しています。

多様な考え方があり、文化的背景や背負っているものも様々だと思います。多様性があるから、私たちは、自分たちの文化や考え方の特色などを知ることができるわけです。

令和2年 冬の県民交通安全運動

来週から「冬の県民交通安全運動」が始まります。期間は、12月1日(火)から10日(木)までの10日間です。

こうした運動期間をきっかけに、今一度、交通安全や正しい交通ルール・マナーについて考え、交通事故を防止するために、自転車の乗り方などの行動を見直し、改善してください。「変わること」が、学習し理解したことの証しです。

自転車に乗る際には、信号や一時停止などのルールをしっかりと守り、夕暮れ時の早めのライト点灯を心がけてください。そして、ヘルメットの着用を習慣化していきましょう。万一の時に頭部を守るのはヘルメットです。その効果は明らかなのです。是非とも、着用をお願いします。

来週からは、期末テストが始まります。朝は余裕を持って登校できるよう、生活リズムを整えてくださいね。